



平成最後の年末を迎えました。この慌ただしい年末に、国は、人手不足を補うために「出入国管理法」を改正し、来年 4 月より施行することを決めました。今後、多くの外国人労働者が来日することが予想され、連日、関連のニュースが新聞テレビ、ネットを賑わせています。今回の法律では家族帯同を認める職種もあり、その家族の日本語教育、学校教育について整備が急がれます。また、彼らを単なる労働力としてではなく、地域で共に生活する仲間として温かく迎えられるよう、私たちの“心の整備”も、併せてしていきたいものです。そしてこの機会に、今現在、学校で席を並べている外国由来の子ども達のことにも心に留め考えていってほしいと願っています。

日本語を母語としない子どもたちのための「プレ日本語教室」開講

来年 1 月より並柳保育園で

昨今、“日本生まれ日本育ち”の外国由来児童生徒の日本語支援依頼が増加傾向にあります。日本の幼稚園、保育園に通っていたのに、小学校入学後、学習につまずいてしまう子どもたちです。

松本市子ども日本語教育センターでは、そのような子どもたちが安心して入学できるよう今年度初めて「プレ日本語教室」(全 8 回)を開講することにしました。外国由来園児の在籍割合が市内でも比較的高い並柳保育園を会場に、園のご協力のもと 1 月 17 日(木)より毎週木曜日午後 1 時から 2 時まで、年長児を対象に日本語教室を開きます。

学校生活で必要なことばや表現を学ぶほか、ひらがなや数字にも触れていきます。また、読み聞かせを通して、日本語のリズムや日本文化を体で感じてもらうと思っています。並柳保育園在園でなくても送迎可能であれば、参加可能です。多くの参加をお待ちしております。

記

- 開催日時： 平成 31 年 1 月 17 日(木)より、毎週木曜日。計 8 回 午後 1 時～2 時
- 会場： 並柳保育園 (松本市並柳)
- 参加申し込み法： 12 月中に、市内各幼稚園、保育園に案内を送付します(母語訳付き) 必要事項を記入して、各園を通じて申し込みます。
- お問い合わせ： 松本市子ども日本語教育センター(電話 25-7143)

今、なぜ「プレ日本語教室」が必要か。

子どもたちの姿と言語環境



日本で生まれ、日本の幼稚園や保育園に通っていて、そして日本語でおしゃべりもできるのに…。そんな子どもたちが、小学校入学後、なぜ学習につまずくのでしょうか。諸説あるかと思いますが、①家庭での言語環境と②無意識の準備段階がないこと、この 2 点が主な原因であると考えられます。

①についてですが、これは「家庭でも日本語を使って!」という意味ではありません。どの言語に関わらず、家庭では豊かな会話を心がけ、子どもの思考の根幹となる言語と概念を育ててほしいというこ

とです。人は“言葉”で物事を考えます。語彙が豊富であればあるほど、物事を考えられる幅が広がります。入学当初は、日本語が心配かもしれませんが、母語がしっかり身につけているお子さんは、母語の力を“てこ”にして日本語を吸収し、そして思考力も深めていきます。

②の「無意識の準備段階」とは何でしょう。幼児がいる日本人家庭の生活環境をご想像ください。テレビからは日本語が流れ、日本語の本や新聞が部屋に置かれ、壁には 50 音表が飾ってある…それが日常の光景です。このように子どもは日常、当たり前のように日本語を耳にし、目にしています。つまり子どもたちの無意識下に、呼吸するかのように日本語が自然に体にしみ込んでおり、入学前にはすでに学校教育を受けられるための準備ができています。日本人児童も外国由来児童も、学校という場での学習は同時期スタートなのですが、外国由来児童はこの準備のできている状態（レディネス）が十分でないためにうまく学習が積みあがらず、つまづくことがあると考えられます。レディネスの有無が、その後の学習習得に大きな影響を与えていることも忘れてはなりません。

私たち松本市子ども日本語教育センターでは、その「レディネス」に着目し、入学前に少しでも学習の準備と意識付けのお手伝いが出来ればと考え、今回「プレ日本語教室」を企画しました。一人でも多くの子どもが、安心して学校生活のスタートが切れるようサポートしていきたいと思っております。

やさしい日本語を使ってみよう

センター便り 11 月号でご紹介した「やさしい日本語」。私たちが普段使っている日本語より簡単で、外国人に分かりやすいように配慮した日本語で、外国人への災害時の迅速な情報伝達や最近では観光でも注目されています。

学校現場でも、日本語学習を始めて間もなくの子どもや、日本語が少し苦手な保護者への対応などに活用できそうです。

では、やさしい日本語を“学校現場”で実際に体感してみましよう。



やってみよう！ 例にならって次の文をやさしい日本語で言い換えてください。

例) (子どもへの教師の指示)

かばんに入っている昨日一緒に練習した漢字のノートを出してください。

⇒ やさしい日本語・・・ かばんを開けてください。漢字のノートを出してください。昨日、漢字を書きましたね。

ポイント…複文を単文に。一文は短く。

問題) (保護者と話すとき)

サントスさんのお母様ですね。お忙しいとは存じますが、一度学校の方へ来ていただくと当方としましてもありがたいのですが…。

⇒

解答例は次回のセンター便りにて。(ヒントは、敬語を使わない&一文を短く&難しい単語を避ける)